スノーバトル

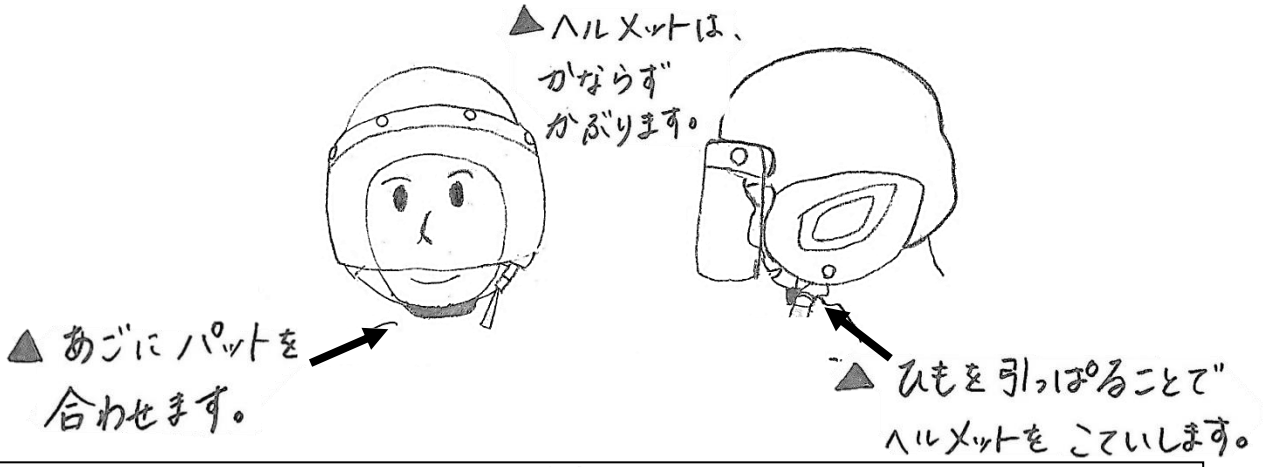
※室内の場合は年間を通して実施可能

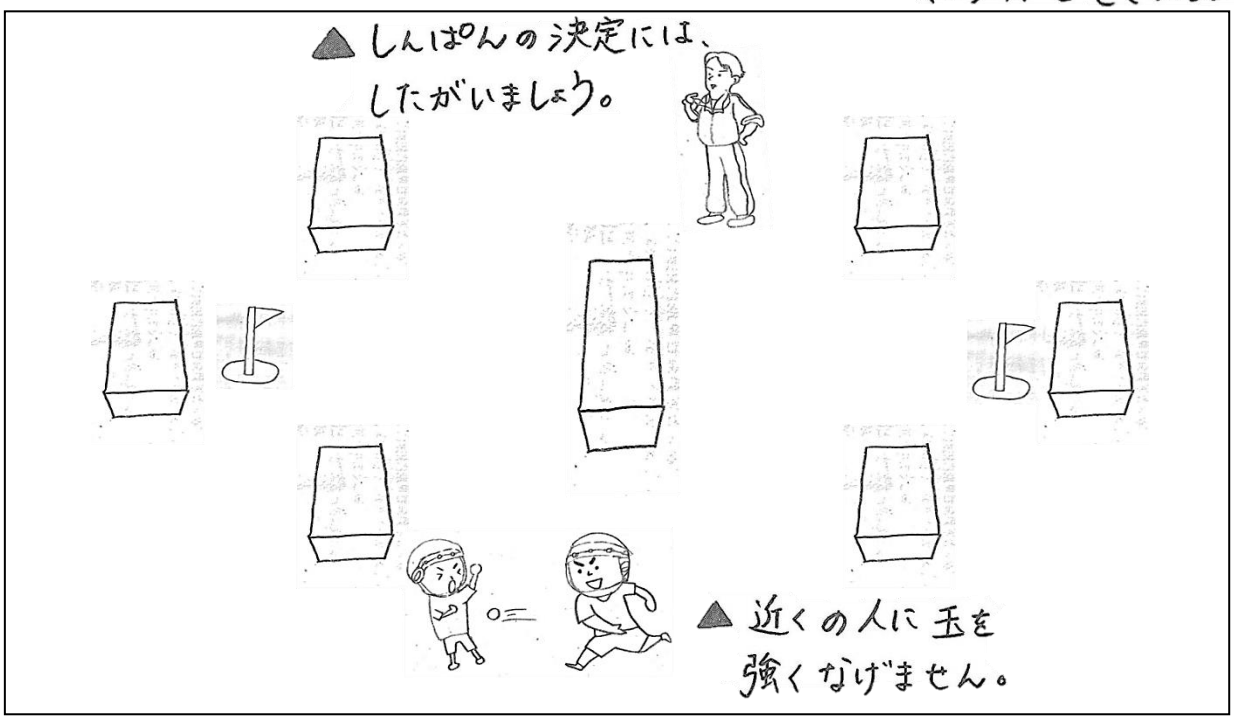
活動場所	プレイルーム、交流ひろば	自然の家にあるもの	ヘルメット、チームフラッグ、シェルター、球
所要時間	１時間～２．５時間	利用者で用意するもの	対戦表（必要であれば）
人数	１試合あたり １０人対１０人程度	活動時の服装	屋外で行う場合：スキーウエア、スキー用手袋、スノーブーツまたは長靴

雪が積もれば、誰もが雪球を作って雪合戦をした経験があると思います。自然の家では屋外はもちろん、室内でも「スノーバトル」として、室内雪合戦が楽しめます。チームで作戦をたて、勝敗を楽しむことができる活動です。

生徒用ページ

スノーバトル





とくに大切なこと

①ヘルメットはひもを調節して、ずれないようにかぶりましょう。
②チームで力を合わせてがんばりましょう。作戦を考えましょう。
③相手チームが近くにいるにもかかわらず、球を強く当てることはやめましょう。相手チームにも思いやりを持って活動しましょう。
④しんぱんの決定にはかならずしたがいましょう。
⑤試合終了後に球を相手チームに返す時、球は投げずに転がして返しましょう。

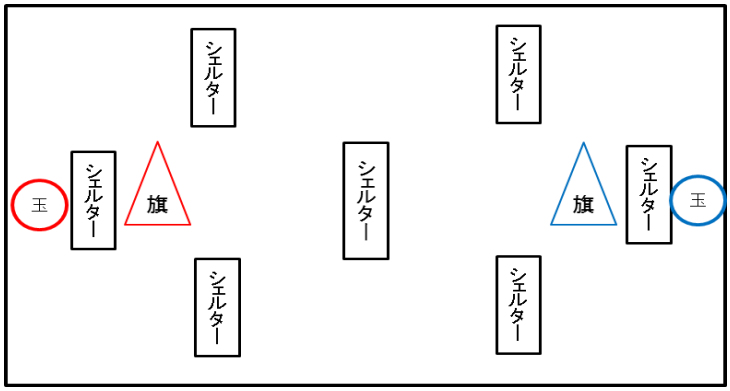
１. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことができる。 ・相手のことも理解し、自分と異なる意見を大切にすることができる。	道徳	「友情、信頼」 「相互理解、寛容」

２. ポイント

ア）活動前

・ シェルター（段ボールの壁）やフラッグ、球、ヘルメットの準備をする。
・ 試合を始める前に、球の数を確認しておく。
・ ルールを指導者で把握しておくこと（次頁参照）。
・予め学校で練習しておくと、当日スムーズに活動できる。
・ 下の図は配置の一例。



イ）活動中

・ 審判は各団体ですること。主審やそれぞれのゾーンを見る審判として３名程度で行う。
・ 球の回収をする際は、勢いよく球を投げる子どもがいるので他の子どもに当たらないよう転がして回収する。
・試合時間以外に球を投げる子どもがいるため、球を投げるのは試合中のみにするように指導する。
・観戦者の安全対策について、所員と確認する。

ウ）活動後

・ 球が当初の数通りあるか確認して返却する（ピアノの下やホールの方に球が残っていることがある）。
・ ヘルメット、球、チームフラッグはプレイルームの倉庫の前に、シェルターはリネン室の前にかためて置いておく。

３．安全対策について

基本的なルール

①競技時間は、１セット３分、３セットマッチです。一方のチームが２セット先取すると試合は終了します。
②プレイヤーは競技時間内に球を用いて、相手チームのプレイヤー全員を当てるか、相手のチームフラッグを抜くように試合を進めます。
③ボールの受け渡しは、プレイヤーが直接手渡しで行うか、コート上に置くか、転がして行います。投げて渡すことはできません。
④相手チームの球を使用することは禁止です。

◆アウトの判定
・手を離れた球が直接、体または衣服に触れること
（一度地面についた球が当たるのはセーフ）
・プレイ範囲（横や縦の線）からでること
・相手の球を投げたり、ゼッケン、ウェアー等に球を隠し持つこと
※アウトになったプレイヤーは、直ちにコートの外に出て、自コートの後方で待機します。

◆勝敗の決定
①競技時間内に相手のチームフラッグを抜いた時点で勝ちとします。
②競技時間内に相手のチームプレイヤーを全員アウトした時点で勝ちとします。
③競技時間内に勝敗が決定しない時は、競技終了時の残りプレイヤーの人数の多いチームを勝ちとします。
④競技終了時の残りプレイヤーの人数が同数の場合は、引き分けとします。
⑤３セットの内２セット先取したチームを勝ちとします。

※このルールの説明は、日本雪合戦連盟が発行する日本雪合戦連盟競技規則集（２００１年版）より抜粋したものです。
※各団体の参加者に合わせてルールを変更しても構いません。